

便通一回（硬く肛門より少しく出血）

八月六日 ガラスの切口の、青きを見て、蚊帳ア

ヲといふ、かやの様に青しといふ意味ならん、

今日より獨りにて、ヒを持つて粥を喰べる、

八月七日 母此の二三日 氣分勝れず、横になり

居りしに、カーチャン、キー〜ワライといふ、

一昨日母か云ひしを、覺え居りしなり、

モーチ、カヒ〜といふ、二三日前、牛乳の配

達おそかりし故、もらひに出かけし事を思ひ出

したるなり、

電車の玩具をもつて、チン〜ゴ〜、ゴケ

ンチヨ〜といふ、便通二回

八月八日 小原先生より、牛乳を四〇〇瓦に増せ

と仰せらる、

少しく元氣悪し、

八月十一日 母と幸田様へ遊びに行き、二階の、

梯子を登り降りしてよろこぶ、

両方、二つ、イツシヨなどいふ事を覺ゆ、數の

考ふこりしならん、

子供らのはなし

何れも幼稚園の子供、可愛い盛り、の四つから五つ

六つ位までの男の子や女の子やが、先生をつかま

へての、家であつたこととしたことのお話、中には

想像で造り出して、よい加減のことをいつて居る

のもあらうし、別にこれといふ節もないのではあ

るが、集めて見れば、さて彼等の思つて居ること、

して居ること、さては家庭の風なども見えつるま

ゝに、かくはしるしぬ。子供は、東京の中流以下、

まづは下層の上なるものなり。

▲神谷隆之助 先生よる夢を見ました、池に鯉だのたひだのが、たくさんおよひで、其池のまはりには、狐がちやん／＼を着て太鼓をたゝいて、おどりなどして居ました。

▲田中清太郎 せんに、餅草摘みに行つて、難せん船を見ました、難せん船と云ふのは、船の中に、水がたくさんはいつて、しづみそうになるのです。

▲野上孝治郎 象が鳥屋へ鳥とりにきたものだから、鳥のあたまをやつたら、象が怒つて鼻をかけた、にげようと思つたら、象がのろいものだから、なか／＼にげられしないで、其内に人が来て、鐵の棒でぶつたら、死んでしまいました。

▲齋藤はま 猫がゐていつか井戸のまわりを廻つていて、おつこつて、井戸屋が来て猫をとつて、あきだなのうしろへ埋めてしまつたの、其時おか

しを買つてたべたの。

▲尾崎鐵太郎 もうせんにね、お春さんの兄さんと明神様へ行つたら、たちんぼうがいて、棒をかんばんだつて、ねん／＼ようと云つてゐました、そうしてお相撲しろつて云ふたら、東西なんて云つて、わざとこるびました、それでもつておまわりさんにしかられました。

▲廣田のい あたしと五郎さんと直次郎さんと三人して、直ちやんがあかんばんで、わたしがお母さんで、五郎さんが兄さんだつて、おばさんごつこして、ござを敷て遊びました。

▲加藤某 けさ、私がある時、お魚屋さんが来て、おばあさんがなまりとさしみとは、どつちがい／＼つて云ひましたから、どつちでもいひつて云ひましたら、おさしみを買つて置いてくれてお晝に

たべます。

▲吉澤某 おちいざんとおばあさんとあつて、お婆さんがついでと鮭と持つて、どぶをまたごうとして、鮭をどぶの中へ落してしまつたら、お婆さんがなさない事をした、なさない事をしたつて云ひました。

▲野上某 どつかの勸工場に行つたら、大きな奇麗な孔雀がいました。南京鼠が車屋の水車みた様の中へはいつて、くるくまわしていました。

▲大石某 田舎の子は、朝お茶碗の音がすると、すぐに起きるつて、お母さんが云ひました。

▲野上某 お父さんが御酒が好きで、ゐゝ子だものだから、瀧の水が御酒になつてしまつたの、子供がお母さんに、何がすきですと云つたら、花がいゝつて、それで花をたいへんそこに植て、御馳

走をたくさんこしらへて、べんく三味線ひいて、お母さんに見せました。

お魚を、お父さんが買つておいでと、云つたのに、お魚がないものだから、こまつていたら、鳥がかあゝつて飛んで来て、お魚を落していつてくれたの。

お使に行くのに、お父さんが、下駄はいて行つて、お母さんが草履はいて行つて、しかたなく、かたちんばにはいて行きました。

▲某 先生、昨日うちへ歸つて、今日は私たちの、幼稚園へ初めて、はいつた日で、それで廣い庭で遊んだり、孔子様を見に行きましたつて、話したら、お母さんがそれはよかつたねーと云ひました。